



志幌の
志

魅力
～発見・創出・体験・体感

誇り
～好き・尊敬・愛着・自信

未来
～創生・交流・夢・発信

2025
2

作成：士幌町教育委員会

さあ、PDCAサイクルの「C⇒A」へ。

文部科学省『学校と地域でつくる学びの未来』には以下のように記されています。(赤枠筆者)

地域と学校の連携・協働を効果的、継続的に行うためには、学校運営協議会と地域学校協働本部、地域学校協働活動の一体的な推進が求められます。

具体的には、地域と学校が、子供たちの学びの充実のために、協議し、協働し、活動後の評価をして、また次の取組につなげていくというPDCAサイクルを回していくことが重要です。



Plan (計画)

学校運営協議会では、校長が作成する学校運営の基本方針の承認を通じて、学校や地域、子供たちの状況等についての必要な情報を共有します。また、子供たちや地域の未来や目の前の様々な課題について共通認識を持つために、多くの関係者による熟議の場を設定し、目標やビジョンを共有します。そして、学校と地域の協働による取組を進めるための目的・目標の設定や、効果的な手段についての協議を行います。



Do (実行)

学校運営協議会や熟議の内容を踏まえ、地域学校協働活動推進員等のコーディネートの下、多くの地域住民の参画による地域学校協働活動を展開します。学校の教育課程内で行う授業補助やふるさと学習、キャリア教育支援から、社会教育の取組である放課後子供教室や地域未来塾、本の読み聞かせ活動や登下校の見守りなど、多様な活動が考えられます。



Check (評価)

学校運営協議会が学校評価の機能を持つことで、学校の教育活動全般に対する評価に加えて、地域学校協働活動に関する評価も効果的に実施することが可能となります。教育課程に係る地域学校協働活動もあることから、それぞれの評価を切り離さず、一体的に行うことが重要です。



Action (改善)

評価の結果を踏まえ、次年度に向けて目的や目標を見直したり、具体的な活動の内容を工夫・修正します。また、新たな課題にどのように対応するかなど、学校運営協議会で協議し、学校の教育活動や地域学校協働活動の改善を行います。学校運営協議会からは、学校運営や教職員の任用について教育委員会に意見を申し出ることできます。

今年度も上記 PDCA サイクルの「C:評価」「A:改善」の段階を迎えました。各学校(園)で取り組まれた「D:実行」が、次年度以降に進化・発展していく大切な段階を迎えます。ワクワクしながら、“子どものために”を学校・地域一体となって熟議していきたいですね。

◆今月は積雪ゼロから帳尻合わせの大雪。学校も臨時休校となり、ご家庭でも皆さん大忙しだったことと思います。とはいえ、畑やヌブカを望む雪原を見るとやっぱりきれいだな～と思う道産子なのでした。◆この時期になると、転出入、進学、卒園、卒業…と気忙しくなってくるかと思いますが、いちど今年度をCheckし、改善点を考えることが必要ですよ。◆CSコーディネーター1年目の「C」も反省すべき点もたくさんありますが、地域と学校をおつなぎできた事例から学んだことを活かし、次年度はもう少しチャレンジしてレベルアップを図りたいです！ (服部)